

# 片子の盆綱

## 伝統ある盆行事

## 匠探訪

28

7、8月は全国で盆行事が行われる月です。盆は先祖の霊を迎えてまつり、終わって送るという年中行事で、さまざまな形で各地で行われます。

この地域の昭和20年代の盆行事の様子が書かれた記録が見つかったので紹介しましょう。

7月になり、7日の七夕の日に「盆道」といって墓や寺への道を掃除し、寺には高灯笼（高提灯）をたて準備にとりかかります。新盆の家では12日に「棚つり」といって新しく盆棚（ぼんだな）をつくり、手伝った人たちに「盆ぶるまい」でもてなしをします。

13日には各家では仏壇の前に「盆棚」をつくり、夕方にモチをつき、稲の穂、粟の穂、豆、スイカ、瓜、ナスなどを祖先の霊に上げます。迎え火をして、タライに水をくみ、そばに草履やわらじをおいて仏が足を洗う用意をします。

14日早朝、ハダシで墓に参り墓前に盆棚をつくり、瓜とナスを細かく切ったものを供え、夕方には婦女子らがお灯明付け」といって墓参りをしますが、20年代の初めころには、線香が上げられるようになったといえます。

15日は家の中の盆棚にうど

16日早朝、盆棚を下げ蓮の葉に供物を包んで川に流したり、墓への道に置きます。早朝に行うのは、「仏が帰路に遅れないように一番舟に乗せるため」といわれています。

今日の盆行事も、多少の変化はあっても、大体このような内容で行われているのでしよう。

飯高地区片子の妙印寺では、盆に境内の太木にしめ縄のような太い綱をつるす「盆綱」の行事があります。各家から持ち寄ったワラで長さ数メートルにおよぶ綱をつくり、かなり以前にはムラ中を引きまわしたあと、つったそうです。

こうした盆綱の行事は全国的に見られ、「道切り」「辻切り」などとよばれる「魔除け」の意味で集落の入り口にワラでへびなどをつくりつるすものと同様のものではないかと考えられます。祇園祭のとき、町内ごとにしめ縄を張ったりして境を示すものと同様です。

盆の行事は、明治時代の新暦が採用されてからも7月に行うところと月遅れの8月のところがあり多様といえます。

### 3人がかりで編まれる片子の盆綱

んや7種の  
ごまあえな  
どを供え、  
夕方には前  
日と同じく  
婦女子らが  
墓参りに行  
き、夜更け  
に仏を送る  
ため「送り  
火」をたき  
ます。

